統　　計　機関誌編集委員会

平成 27 年主要建設資材価格の動向

1. はじめに

建設資材の価格動向について，一般財団法人経済調査会発行の「月刊積算資料」で発表している実勢価格調査の結果を用いて考察することとする。

表―1 は，主要建設資材 25 品目の直近 6 ヶ月間の東京地区の価格推移である。4 月価格を半年前の 11 月価格と比較すると，25 品目のうち半数以上の 14 品目に動きがみられた。そのうち上昇した品目は 4 品目に止まり，一方，灯油，ストレートアスファルトの石油製品や異形棒鋼，H 型鋼，普通鋼板の鋼材類，電線，鉄屑の国際商品系など，原材料の下落等による影響で 9 品目に下落がみられるなど，上昇品目数を大きく上回った。2012 年から建設資材の高騰が続いてきたが，ここにきて変化がみられる。

2. 主要建設資材価格の動向

この主要 25 品目の中から，特に重要と思われる 10 品目について一般財団法人経済調査会調査部門による 2015 年 4 月調査時点の東京地区の市況判断を要約すると以下の通りとなる。

(1) H 型鋼

主力需要家である鉄骨ファブリケーターは，多くの製作案件を抱えており引き続き需要は堅調である。

しかし，原料相場の大幅な値下がりから需要家の間には先安観が浸透，材料手配は当用買いに終始しており，荷動きは精彩を欠いている。一方，メーカーは採算重視の構えを堅持しているが，流通業者の間では数量確保から安値取引に走るケースが顕著になり，ジリ安で推移している。

表―1　主要建設資材価格推移（東京地区）

〔価格＝東京：円〕〔消費税抜き〕

資　材　名	規　　格	単位	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	半年前(11 月)との対比（円）
灯油	民生用 スタンド 18ﾘｯﾄﾙ缶	缶	1,760	1,746	1,620	1,476	1,494	1,476	－284
A 重油	（一般）ローリー	kL	81,500	79,000	70,000	58,000	58,500	57,000	－24,500
ガソリン（ガソリン税込）	レギュラー スタンド	L	150	148	138	126	128	127	－23
軽油（軽油引取税込）	ローリー	kL	113,000	110,500	100,500	88,500	89,500	89,500	－23,500
異形棒鋼	SD295A・D16 ②	kg	64	63	62	61	59	58	－6
H 形鋼（構造用細幅）	200 × 100 × 5.5 × 8 mm（SS400）②	kg	81	81	81	80	79	78	－3
普通鋼板（厚板）	無規格 16 ～ 25,914 × 1,829 mm ②	kg	79	79	79	79	78	78	－1
セメント	普通ポルトランド バラ	t	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	10,300	0
コンクリート用砕石	20 ～ 5 mm（東京 17 区）	m^3	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	0
砂	荒目洗い（東京 17 区）	m^3	4,650	4,850	4,850	4,850	4,850	4,850	200
再生クラッシャラン	40 ～ 0 mm（東京 17 区）	m^3	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	0
生コンクリート	強度 21 スランプ 18 cm 20（25）mm（東京 17 区）	m^3	12,800	12,800	12,800	12,800	13,300	13,300	500
アスファルト混合物	再生密粒度 13 mm（東京都区内）	t	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200	11,200	0
ストレートアスファルト	針入度 60 ～ 80	t	97,000	90,000	90,000	90,000	72,000	72,000	－25,000
PHC パイル A 種	350 mm × 60 mm × 10 m	本	29,600	29,600	29,600	29,600	29,600	29,600	0
ヒューム管	外圧管 1 種 B 形 呼び径 300 mm	本	9,510	9,510	9,510	9,510	9,510	9,510	0
鉄筋コンクリート U 形	300 B 300 × 300 × 600 mm	個	1,410	1,410	1,410	1,410	1,410	1,410	0
コンクリート積みブロック	250 × 400 × 350 mm	個	580	580	580	580	580	580	0
杉正角	3 m × 10.5 cm × 10.5 cm 特 1 等	m^3	44,000	44,000	44,000	44,000	44,000	44,000	0
米ツガ正角	3 m × 10.5 cm × 10.5 cm 特 1 等	m^3	48,000	48,000	50,000	50,000	50,000	50,000	2,000
コンクリート型枠用合板	12 × 900 × 1,800 mm ②	枚	1,320	1,350	1,350	1,370	1,370	1,370	50
電線 CV	600 V ビニル 3 心 38 mm^2	m	1,259	1,259	1,259	1,153	1,153	1,153	－106
鉄屑	H2	t	21,000	21,000	18,000	18,000	16,500	16,500	－4,500
ガス管	白管ねじなし 25 A	本	1,830	1,830	1,830	1,830	1,830	1,830	0
塩ビ管	一般管 VP 50 mm	本	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	1,240	0

（出典）（一財）経済調査会「月刊積算資料」
（注記）調査日は原則として前月 20 日～当月 6 日調べ。

都心部での事務所ビルや工場，物流倉庫など，多くの鉄骨造の工事案件が控えていることから，今後も底固い需要が見込まれているため，採算悪化に苦慮している流通業者は，荷動きの回復を契機に徐々に売り腰を引き締めるものとみられる。

(2) 異形棒鋼

鉄屑価格の下落基調を背景に先安観が台頭している。そのため，需要家側は納期の迫った案件を中心に当用買いで材料手配を進めており，需給は引き締まりを欠いた展開が続いている。

この状況下，需要家が値下げ圧力を強めていることと，販売数量を確保したいとする一部流通業者の思惑が重なったことで，安値取引が目立つ展開となった。

これに対しメーカー側は，鉄屑相場の底を打つ気配が見え始めていることや今後の需要も堅調さを維持するとの見通しから，当面は需要見合いの生産に徹することで販売価格の維持を図りたい構え。

(3) セメント

セメント協会まとめによる平成27年2月期の国内販売実績（輸出を除く）は約356万6,651 tと前年同月比3.7％の減少。全国10地区中，東北，関東，沖縄地区を除く7地区で前年同月比を割り込む結果となった。メーカー各社は年度末需要に期待を寄せていたものの出荷は振るわず，平成26年度の年間需要想定の下方修正を余儀なくされているのが現状である。

大手メーカー各社では2年前に打ち出した値上げに対して，満額に達していないことを理由に価格交渉を継続しているが，実質的な交渉には至らず進展はみられない。先行き値上がり要因は少なく，現行値圏内での推移となろう。

(4) 生コンクリート

東京地区生コン協組調べによる平成26年度の出荷量は317万7,213 m^3で前年同期比2.4％増。同協組では平成26年12月以降前年比約10％以上の出荷増が続いたことで，前年度を上回る出荷量を確保することができたとしている。また平成27年度の出荷見込みは，豊洲新市場向け，都市再開発物件への出荷が旺盛であることを背景に前年度並みの320万 m^3と予測している。

価格は3月に m^3当たり500円上昇したが，協組側はさらなる上積みを獲得すべく価格交渉への強い意欲を示しているが，需要家側の抵抗が大きいと予想されるため，慎重に交渉を進めていく意向。

(5) アスファルト混合物

平成26年4月～平成27年2月期の都内向けアスファルト混合物製造数量は185万2,609 tと前年同期比5.3％の増加（東京アスファルト合材協会調べ）。しかしながら，第4四半期の合材出荷量は一般舗装工事発注が少ないことから，積雪による出荷減の影響を大きく受けた前年とほぼ同水準となる見通しである。

主原材料であるスト・アス価格の下落を契機に，新年度入り後需要家の値下げ要求は一段と強まっている。販売筋では，一般工事による出荷量の確保が困難なことに加え，これまでの値上げの打ち出し額が完全に末端まで浸透していないことから，現行価格の維持が精いっぱいの状況。目先，横ばい推移の公算が大きい。

(6) コンクリート用砕石

豊洲新市場等，都心部の大規模物件向けの生コン出荷が本格化したことで，コンクリート用砕石の荷動きも堅調に推移している。

好調な需要の後押しを受け，新年度に入り，販売価格引き上げ交渉は活発化している。供給側では，これまでの値上げ分では今後の需要増に対する輸送力増強には不十分だとし，値上げに対して理解を求めているものの，これまで値上げを受け入れてきた需要家側は3年連続の値上げに対し強い抵抗を示しており，交渉は難航している。目先，横ばいで推移する公算が大きい。

(7) ガス管

メーカーの供給ネックは解消に向かうと同時に，工期の遅れ等から荷動きが低調なこともあり，市中在庫の品薄感は弱まってきた。流通筋は引き続き在庫状況を見極めながら売り腰を強めているものの，大型案件への本格的納入はまだ先であることから，現状では市況変動への影響はみられない。当面，横ばいで推移しよう。

(8) コンクリート型枠用合板

輸入量が減少しているにもかかわらず，需要の低迷により港頭在庫は増加している。販売側は，産地価格の上昇を受けて売り腰を強めているものの，市中の荷余り感から市況を押し上げるには至らない。

(9) 軽油

原油価格に大きな値動きがみられない中，元売会社は好調な輸出量を維持しつつ市中への供給量を減らすことで，需給バランスの調整を図っている。一方，需要は盛り上がりを欠く中，収支改善を図りたい流通筋は現行価格の死守に懸命。このためスポット市場からの安値の流通が散見されるものの，先行き，横ばいで推移しよう。

(10) 電線ケーブル

4月初旬の国内電気銅建値は，海外相場高を背景にt当たり77万円と前月初旬比2万円の上昇。流通側は，冬場の荷動きに停滞感が続くことから，数量確保を重視した動きが目立っており，市況上伸には至っていない。

一方，日本電線工業会の電線受注出荷速報によると，建設・電販向けの2月推定出荷量は約2万7,500 tと前年同期比約2.5％の下落。首都圏の再開発を中心に需要は底堅いが，一年前の消費税増税直前ほどの活況はみられない。夏場に向け，荷動きが活発化する見方が大勢を占めており，流通側は，2月下旬から続く銅価ジリ高の未転嫁分解消が喫緊の課題である。

3. 主要資材の都市別価格動向

表―2は主要25品目のうち，価格変動が頻繁に生じやすくさらに地域性の強い資材として3品目を抽出して主要10都市毎に過去2014年4月と2015年4月時点を比較したものである。

まず，異形棒鋼については，2015年4月の価格を2014年4月と比較すると，札幌を除き，kg当たり7円～10円と10％以上の下落となっている。下落が原材料である鉄屑相場の影響によるため，全国的に下落状況となっている。一方札幌はほかの地区に比べ小幅な

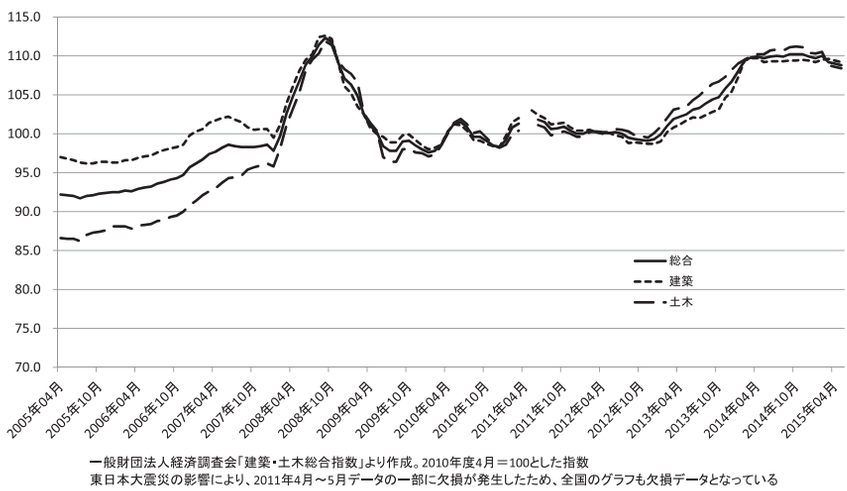
統　　計

表―２　主要建設資材の価格推移（主要 10 都市）

価格：円（消費税抜き）

資材名	異　形　棒　鋼				生コンクリート				アスファルト混合物			
規　格	SD295A・D16				21-18-20（25）				再生密粒度 13（注記 2 参照）			
地区	単位	2014 年 4 月	2015 年 4 月	変動額（円）	単位	2014 年 4 月	2015 年 4 月	変動額（円）	単位	2014 年 4 月	2015 年 4 月	変動額（円）
札　幌	kg	67.0	66.0	−1	m^3	12,500	12,500	0	t	12,150	12,500	350
仙　台	〃	68.0	61.0	−7	〃	14,000	14,000	0	〃	10,500	10,500	0
東　京	〃	68.0	58.0	−10	〃	12,800	13,300	500	〃	10,000	10,200	200
新　潟	〃	68.0	58.0	−10	〃	12,000	12,500	500	〃	11,400	11,400	0
名古屋	〃	65.0	58.0	−7	〃	9,600	10,800	1,200	〃	9,900	10,300	400
大　阪	〃	65.0	55.0	−10	〃	12,200	12,200	0	〃	9,700	9,900	200
広　島	〃	66.0	57.0	−9	〃	14,150	14,150	0	〃	9,800	9,800	0
高　松	〃	67.0	59.0	−8	〃	8,400	8,400	0	〃	12,500	12,800	300
福　岡	〃	67.0	58.0	−9	〃	10,950	10,950	0	〃	9,700	10,000	300
那　覇	〃	78.0	71.0	−7	〃	12,700	13,200	500	〃	13,300	13,300	0

（出典）（一財）経済調査会「月刊積算資料」
（注記 1）調査日は原則として前月 20 日～当月 6 日調べ。
（注記 2）生コンクリートの東京は東京 17 区価格。アスファルト混合物の東京は東京 23 区価格。
（注記 3）アスファルト混合物の札幌は再生細粒度ギャップ 13F が対象。



図―１　建設資材価格指数（全国：総合）

値動きであるが，これは他地区と比べ影響が遅れているためで，今後同様に下落へ向かうものと思われる。

次に生コンクリートであるが，この資材は個別の地区事情に影響されて価格相場が形成されているため，それぞれの特色が出ている。2015 年 4 月を見ると，最も高値が広島の 14,150 円で，一方安値は高松の 8,400 円で，その差は 5,750 円と大幅な価格格差となっている。またここ 1 年の動きをみると，名古屋が 1,200 円の上昇を見せ 1 万円台に乗せた結果，2012 年に 4 地区あった 1 万円に届いていない地区は高松だけとなり，安値地区が解消されつつある。

最後にアスファルト混合物に関しては，ストレートアスファルト上昇の影響からおおむね全体的には小幅ながら上昇している。

4. おわりに

図―１の建設資材価格指数（全国：総合）は，2005 年 4 月からの建設資材価格の動きを指数化したグラフであるが，2012 年 10 月を底に右肩上がりで大幅に上昇してきたが，2014 年 4 月以降はほぼ横ばいの傾向に変化してきている。

2012 年以降に，円安や原油の値上がりによる原材料の値上がりによる建設資材の値上げラッシュがあり，旺盛な建設投資による資材需要の高まりが後押しとなって，市場では資材価格が高騰した。これも 2014 年 4 月以降は落ち着きを見せ，高値水準を維持して安定的に推移している。

2020 年の東京オリンピックに向けた事業および東日本大震災の復興事業などが，当面建設投資をけん引することから，安定した建設投資を背景に建設資材市況も高水準での値動きが展開されよう。

（文責：荒川）